

10

大ニュース

2011年も残すところあとわずか。さまざまなことが起こった一年でしたが、ここでは荒尾市の一年を象徴する出来事をピックアップしました。



▲荒尾競馬場でのレースは12月23日(金・祝)が最後の予定です

9月5日(月)、市議会で前畑市長は荒尾競馬の廃止を表明しました。荒尾競馬は80年余の歴史を持つ日本最古の地方競馬場で、これまで87億円を超える収益を市へ配分するなど、荒尾市に多大な貢献を果たして来ました。しかし、近年はレジャーの多様化もあり、客数・売上が減少し、累積赤字も増加しているため、事業を継続することが難しいとの判断から下された決断でした。荒尾市では、関係者の再就職、跡地の活用などについて、競馬対策課を設け、その対応に努めています。



▲創作ステージ「宮崎滔天と孫文」～荒尾の偉人を訪ねて～

中国辛亥革命の英雄である孫文と革命を支援した宮崎兄弟を顕彰し、多彩な事業が催されました。メイン行事である10月22日(土)の記念シンポジウムでは「“千万年”光輝く日中友好を目指して」をテーマに、中国革命に宮崎滔天が果たした功績をたたえとともに、これからの日中友好に向けた人材育成と交流の必要性が語られました。また、10月10日(月)に上演された創作ステージでは、多数の市民が辛亥革命にまつわる物語を分かりやすく演じて、好評を博しました。



▲世界遺産暫定リストに登録されている万田坑

万田坑の入坑者が7月24日(日)、55,500人を突破したことを記念し、セレモニーを開催しました。万田坑を含めた九州・山口の近代化産業遺産群の本登録に「ゴーゴーゴー！」と弾みがつくことが期待されます。また、昭和初期に建設され、機械や機器の修理、工具の製作などが行われていた「職場」の保存修復工事が完了し、11月5日(土)にリメイクオープンしました。内部には、当時の旋盤や研削機などの機械、部品が閉山当時のまま保存されています。

1 荒尾競馬廃止表明



▲荒尾市水道局は宮城県村田町で給水支援を行いました

3月11日(金)に発生した東日本大震災の被災地に、荒尾市からも多くの支援が行われました。1億1,000万円を超える義援金が寄せられ、多くの市民が被災地支援のために現地に赴きました。また、9月4日(日)、緑ヶ丘小学校で実施した総合防災訓練には多くの市民の皆さんが参加し、災害に備える意識の高まりがみられました。



▲市民サービスセンター

市民サービスセンターは平成22年6月、あらおシティモール2階に開設され、主に戸籍・住民票・印鑑証明などの証明書交付事務を行っています。本年4月からは業務を拡大し、市税などの納付や医療費助成申請受付を始め、10月からはパスポートの申請・交付事務を始めるなど、より市民の皆さんに利用しやすい施設になりました。

10 マジャッキー生まれ変わる

市の魚であるマジャクから生まれたマスコットキャラクター「マジャッキー」。今年2代目がスリムになって誕生しました。親しみやすいキャラクターで市民の皆さんにも受け入れられています。今年は「ゆるきゃらグランプリ2011」にも参戦し、全国デビューを果たしました。

9 校区から地区へ名称変更

本市で行政事務区・コミュニティ区分・通学区に長年用いてきた「校区」という名称が、学校の統廃合で実情に合わなくなったため、4月1日から行政事務区・コミュニティ区分についての名称を「地区」に変更しました。これにより、今まで以上に地域住民主体の地区コミュニティが動き始めています。



▲万田小学校で新たな歴史がスタートしました

4月8日(金)、万田小学校の開校式が行われました。平成22年度で閉校した二小と三小の校区が統合され、旧二中校舎を増改築して誕生しました。式では、校区の象徴である炭鉱遺産や万田山、有明海を描いた校歌が歌われ、新しい仲間となった児童代表が「万田小の伝統の石垣を積み上げていく」と力強く宣言しました。



▲10月22日(土)に行われたファミリーサポートセンター開所式

桜山保育園に荒尾市ファミリー・サポート・センター“さくらんぼ”が開設されました。子育ての「応援をしたい人」と子育てを「応援してほしい人」が会員登録し、子どもの預かりなどを行う地域住民間の相互援助活動の支援が目的です。今後は会員の講習会や交流会の開催、会報の発行などを通して支援の輪が広がることが期待されます。

8 県塚大綱引きファイナル

県境をはさんで競う県塚大綱引きは、平成3年に始まり、秋の風物詩として親しまれて来ましたが、実行委員会メンバーの高齢化や参加者の減少などの理由から21回目の今回が最後になりました。最終戦は大牟田市が勝利し、通算の対戦成績は荒尾市11勝、大牟田市10勝でした。